

くカピシヤ國に滞在したことは、地理上から見ても従つて又歴史的に考へても確實なことである。ところが、「コーカサス」Caucase 即ち「Paropanisè」に於けるアレキサンダー領は何處であつたか、其の候補地は多いけれど、今の所では何等發掘資料がないため、それを決定することは不可能である。バーミヤーンには首都として昔から傳へ來つた重味がある。チャリカールには現在見るやうな盛な市場がある。パルワーン Parwân は北方の山に近い地の利を占めてゐる。ホピアーン Hopiân のある處は其の起源古く Opianè の古典記事にさへ出てゐる。然し、西曆紀元前三二九年の昔、アレキサンダー大王が此の附近に定めた其の確な位置は兎に角とし、要するに此のギリシア殖民地なるものはヒンヅクローシユ山の南麓で軍隊に補給し得べき唯一の地點、即ちカピシヤ平原北方の或る地點にあつたことは確實である。然らば此の根據地出發後、アレキサンダー王は如何にして印度に進軍したものであらうか。此の疑問に對する一般的解釋は言ふまでもなく、單に著名であつたと云ふ理由で現代の道を進み先づ南方カーブル方面に、次で東方ヂェラバード方面に向つた